NO. 110

蓬左

HÔSA

金沢文庫本　侍中群要

名古屋市蓬左文庫
HÔSA LIBRARY, CITY OF NAGOYA

表紙：167-19　重要文化財　金沢文庫本　侍中群要（かなざわぶんこぼん　じちゅうぐんよう）　10巻
嘉元４年（1306）（最長）29.6×（最長）942.4㎝

侍中群要―流離いの果てに―

『侍中群要』は宮中の役職、蔵人（天皇側近の事務官）の職務について行事別に編纂した書物。金沢文庫本は現存最古写本で、これを基に江戸時代以降多くの写本が作られている。

書写の指揮を執った金沢北条氏三代・貞顕は、六波羅探題南方在任中に善本の書写・蒐集を積極的に行っており、本書もその活動の中で制作されたものと考えられている。なお、使用料紙は金沢北条氏の文書群の裏面を転用したものである。

貞顕自筆の巻十奥書には、六波羅評定衆・水谷清有所蔵本をわずか十日余りで書写を終えたこと、水谷家本は養和元年（一一八一）に成立した五品羽林親家所蔵本を書写したもので、上下巻構成で閲覧に不便であったため、書写時に十巻本に分割した旨記されている。なお羽林家本のテキストは、転写の過程で本来の姿が崩れている箇所があるため、本書にはその影響と思われる表記等が散見される。

文禄二年（一五九三）に豊臣秀次より日野輝資に譲られ、慶長十九年（一六一四）、日野から家康へと献上された。家康の没後、駿河御譲本として尾張徳川家初代義直へもたらされた。

寛永元年（一六二四）、後水尾天皇の要請を受け、近衛信尋・松花堂昭乗が仲介役となって、義直所蔵の金沢文庫本を貸出したようであるが、「斉民要術」のみ原本で対応し、「侍中群要」は、この貸出のために謄写本（108-57）を作成している。（『禁中へ御借シノ御書籍之覚』）

尾張徳川家に伝来した金沢文庫本は、蔵書目録等の記録上、六件確認されているが、明治維新期の混乱の中で「宋版『唐書』宰相世系表」（東京国立博物館蔵）が流出。残り五件は今でこそすべて蓬左文庫に伝存しているが、実は「侍中群要」もこの時期に一旦流出している。しかし昭和十年（一九三五）、蓬左文庫が開館すると同時に、再び尾張徳川家へと帰することになった。

流出から帰属にいたる約半世紀間の事情は不明ながらも、流出した蔵書のほとんどが所在不明となっている中、「侍中群要」の帰還はまさに奇跡的な事象であるといえよう。

（蓬左文庫　星子桃子）

【参考文献】
目崎徳衛校訂・解説『侍中群要』（吉川弘文館、一九八五）
徳川美術館『徳川義直と文化サロン』（二〇〇〇）
貫井裕恵「名古屋市蓬左文庫蔵『侍中群要』紙背文書について」（『金沢文庫研究』、二〇二三・二四）

＊令和八年二月七日（土）～四月五日（日）まで企画展「金沢文庫・蓬左文庫交流展「金沢文庫本―流離う本の物語―」で、「侍中群要」を展示（巻替えあり）しています。

名古屋市蓬左文庫　〒461-0023 名古屋市東区徳川町1001番地　TEL（052）935-2173　FAX（052）935-2174
ホームページ　https://housa.city.nagoya.jp/〈蔵書検索もできます。〉

ご利用案内

■休館日／月曜日（祝日・振替休日のときは直後の平日）※変更することがあります。
■展示室／【開室時間】午前10時～午後5時（入室は午後4時30分まで）
■閲覧室／無料　館外貸し出しはいたしません。
【閉架図書】午前9時30分～午前12時　午後1時～午後5時　【開架図書】午前9時30分～午後5時
【複写サービス】保存など支障のない範囲で、CD-Rからのプリントアウトまたはマイクロフィルム複写などの方法により行います。
電話・郵便による申込みも可。

「蓬左」第110号　☆令和8年1月4日発行　☆編集・発行：名古屋市蓬左文庫　☆年2回発行　☆印刷：菱源（株）